

教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

梶谷 哲史

国際学会：the European Association for Research on Learning and Instruction

参加地・期間：マルタ共和国バレッタ・2025年11月25日～11月27日

発表題目：The Relationships Between High School Inquiry Topics and Students' Global Competence: Focusing on Social and Academic Dimensions

成果の概要

2025年11月25日から27日にかけてマルタ共和国のバレッタにて開催されたEAPRIL (the European Association for Research on Learning and Instruction) に参加してきました。EAPRILは教育実践家も集う国際学会であり、非常に親しみやすい雰囲気でした。初めての国際学会に一人で参加した私にとって、そのような雰囲気は緊張をほどよくほぐしてくれました。

本学会で行ったポスター発表は「The Relationships Between High School Inquiry Topics and Students' Global Competence: Focusing on Social and Academic Dimensions」というタイトルで、高校生の探究学習のトピックによってグローバル・コンピテンスが異なるのか検討した研究でした。初めての英語での発表だったので、聞きとれないかもしれない、英語が伝わらないかもしれないということも念頭に入れ、出発前に原稿や補足資料、想定質問集など入念に準備をしました。abstractを提出した際にいただいたコメントを意識し、日本での探究学習実践の様子や、トピックの具体的内容などが分かるように補足資料を作成しました。実際、多くの方から探究学習の内容やトピックについて質問をいただきました。一方で、想定していない質問には十分に回答できない、そもそも質問内容が理解出来ないなど語学力の不足は反省すべき点として挙げられます。当然のことですが語学力の不足は発表だけでなく国際学会を十分に活用する上でも障害であること痛感しました。

今回の国際学会では自分のポスター発表だけでなく、口頭発表のセッションのチェアを担いました。申込みの時にチェアへのチェックを外し忘れていたためです。同期から出発前に言われて初めて知り、当初はとても困惑しましたが開き直って準備を進めました。事前にスクリプトを作成し、発表者のabstractを事前に読んで質問をいくつか作成しておきました。他のチェアの方がどのように進行しているか確認しました。口頭発表のセッションでは15分の発表時間と10分の質疑応答の時間が各発表者に与えられ、最後に全体ディスカッションを15分行われるという構成でした。チェアはセッションの進行と時間管理が主な役割で、会場から質問が出ないときには質問を行いました。当日はオーディエンスから活発に質問が飛び交い白熱した議論が交わされました。プレゼンターとオーディエンスの方達のおかげもあって、不慣れながらもチェアとしての最低限度の責務は果たせたのではないかと思います。

私にとって初めてとなる国際学会は酸いも甘いも経験できた刺激的なものでした。また、一人での参加・発表はチャレンジングでしたが乗り越えることができ、今後の国際学会への参加に対する心理的ハードルは下がったように思います。さらに今回の経験を経て、欧州諸国の教育実践家と交流したいという思いも湧いてきました。一方で、グローバル教育展開オフィスの金銭的支援があったからこそ、このような得がたい経験をさせていただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。今回の経験をより良い研究生活につなげていきます。